

CLA journal



■特集/2012年ランドスケープコンサルタンツ協会賞 (CLA 賞)

一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

基本理念

我々の使命は、新たな環境認識のもとに、人と自然との関係を科学的、芸術的に把握し、環境と調和・融合した新しい秩序づくりに積極的に挑戦することによって、安全で豊かな環境の創出、すなわち、「みどりの環境文化」の形成に寄与することです。

1. ランドスケープアーキテクチャーの専門家集団

我々は、日本におけるランドスケープアーキテクチャーの思想と技術を継承し、発展させるために組織された専門家集団です。

2. 新しい技術の開発と研鑽

我々は、来たるべき21世紀の社会に対する責任を十分認識し、技術の高度化と多様化に対応した新しい技術の開発と研鑽を推進し、技術競争の時代に対応します。

3. 社会的信頼の獲得

我々は、社会的倫理観のもとに、公正な技術競争を通し、内外の要請にも応えられる自立した職能として社会的信頼を獲得すべく行動します。

4. 開かれた技術団体

我々は、内外の関連技術者との交流を通して、協調関係を積極的に推進し、多様な価値観を内包する開かれた技術団体として広く展開します。

5. 魅力ある創造的職能

我々は、経営体質の向上と安定を図ることによって、魅力ある創造的職能として広く社会から信頼されることをめざします。

平成7年5月
「新しい環境文化の創造—造園コンサルタントビジョン—」より

目 次

特集：2012年ランドスケープコンサルタンツ協会賞（CLA 賞）

■最優秀賞	
【調査・計画部門】	
「町田市緑の基本計画」改定を通じた多摩丘陵・ 里山回廊の確実な保全に向けた手法の検討	2
■優秀賞	
【設計部門】	
ギャザリア ビオガーデン「フジクラ木場 千年の森」	4
麗澤大学 森の中の新校舎	6
【マネジメント部門】	
生物多様性保全型公園の管理運営計画立案と暫定運営	8
■特別賞	
【設計部門】	
第28回全国都市緑化かごしまフェア“花かごしま2011”	10
■奨励賞	
【設計部門】	
修験道の霊山「求菩提山」 甦る修験の至宝 ～求菩提山史跡修復整備（福岡県豊前市）～	12
【調査・計画部門】	
人を元気にするパワーが宿る筑後国一の宮「高良山」 ～高良山保存整備活用計画（福岡県久留米市）～	13
【マネジメント部門】	
福岡市 緑のコーディネーター 公共空間を創造・保全する担い手育成の取組み	14
■CLA 賞の趣旨と募集・選考のあらまし	15
■受賞技術者プロフィール	16

支部活動報告

北海道支部／ランドスケープシンポジウムの開催など	18
関東支部／平成23年度事業概要報告	19
中部支部／明日に向けた新たな事業展開を求めて―平成23年度事業計画の実施―	20
関西支部／平成23年度事業概要報告	21
九州支部／九州ランドスケープセミナーの開催ほか	22

会員名簿／23
お知らせ／26
書籍案内／27, 28
編集後記／28

表紙の Photo Story

この作品は、机上の論理になりがちな緑地の評価を実務的な面を考慮し、所有単位、取引単位となる筆単位で評価している点が高く評価されました。従来の確かな技術に満足することなく、新たな技術の研究に取り組む姿勢こそがこれからのランドスケープコンサルタンツに求められるものではないでしょうか。(作品評より抜粋)



「町田市緑の基本計画」改定を通じた多摩丘陵・里山回廊の確実な保全に向けた手法の検討

株式会社プレック研究所 栗原 崇・嶋原史也・鬼頭直美

町田市は東京の西南端に位置し、北部では、多摩丘陵に沿ってまとまった緑地が残され、農村集落や谷戸田とともに里山景観を形成し、市街地では、緑を基調とした良好な都市環境を形成しています。

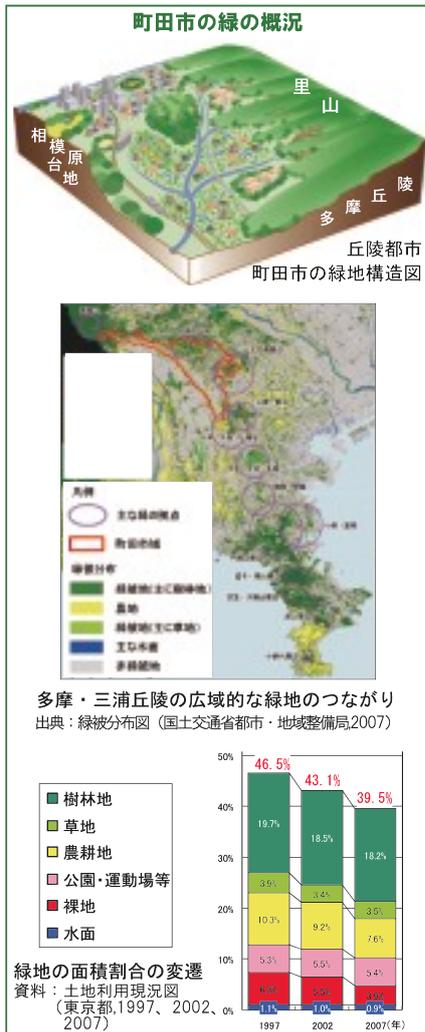
また、北部の丘陵は、高尾山から三浦半島にかけての多摩・三浦丘陵の緑地の一部であり、広域的な緑地ネットワークの“要”となっているため、この緑地を保全していくことが重要視されています。

しかし、1999年策定の「町田市緑の基本計画」に沿

って、緑地の配置や緑化の推進などの緑のまちづくりを進めてきましたが、宅地開発等によって緑地が減少しているのも現状です。

そこで、「緑の基本計画」を改定する中で、緑地保全に向けた市の姿勢と、そのための客観的な緑地評価を明確に打ち出し、具体性のある計画といたしました。

まず、「緑の将来像図」の18の拠点を「水と緑の拠点」として位置付け、拠点形成の方針として、各拠点の緑の担保性をできる限り高めるため、土地取得等による



作品概要

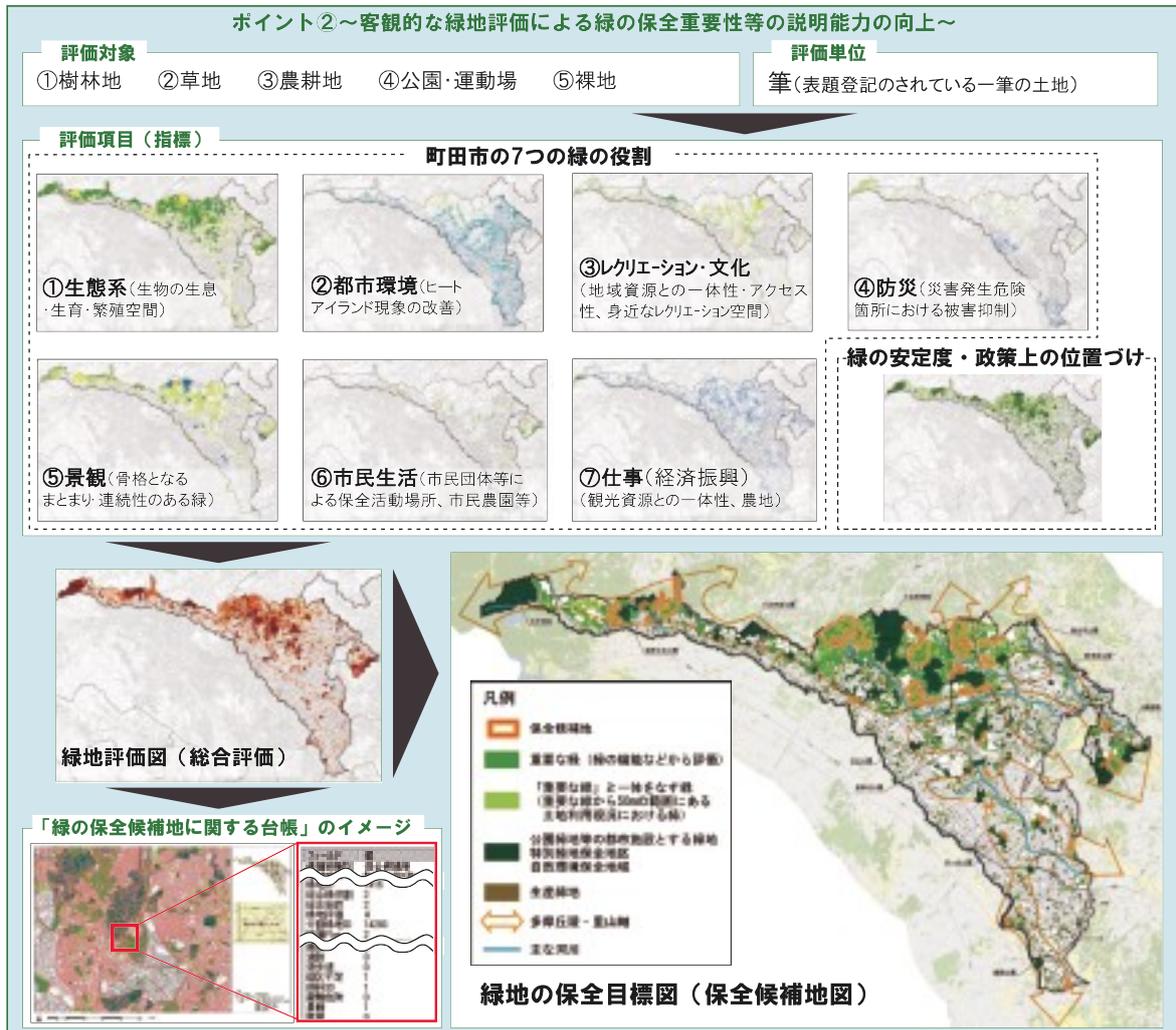
作品名：「町田市緑の基本計画」改定を通した多摩丘陵・里山回廊の確実な保全に向けた手法の検討
 対象地：町田市
 発注：町田市
 事業目的：1999年に策定された「町田市緑の基本計画」を、緑の現状や緑を取り巻く社会情勢、関連法令などの変化を踏まえて改定する。
 事業体制：株式会社ブレック研究所 都市・地域計画部、システム情報部（栗原崇・嶋原史也・鬼頭直美）
 協働者等：
 事業期間：平成21年8月～平成23年2月
 事業規模：町田市全域

作品評

この作品は、町田市における「緑の基本計画」の改定において、緑地の確保と整備のための方策について、これまでにはない新たな提案を積極的に行ったものとして高く評価された。計画の中では、緑地に対する客観的な評価基準を設定し、GISを用いて、それぞれの緑地を評価し、それを公開して、重要な緑地に対する市民の認識を向上させることにより、その担保性を高めようとしている。また、緑地の評価はややとすると机上の論理になりがちであるが、ここではきわめて実務的で、有効に活用されることと思われる。それは、保全すべき重要な緑地の担保における実務的な面を考慮して、所有単位、取引単位となる筆単位で評価しているところである。さらに、このデータは緑の保全台帳としても活用されるなど、土地所有者に対する緑地の保全上の位置づけの説明にも使え、迅速かつ効果的でわかりやすいツールとして実用性を高く評価できる。なお、プレゼンテーションもわかりやすく、要点を的確に表現しており、これらについても高く評価された。

都市公園整備を予定する区域等を明示しています。これにより、町田市の緑の保全に対する姿勢や取組みを市民に広く示すとともに、緑の確保に向けた取組みを後押しすることを狙いました。また、市内の緑の価値をわかりやすく説明するために、「町田市の7つの緑の役割」や緑の安定度などの緑地の評価項目に沿って指標を設定し、GIS(地理情報システム)を用いて、客観的・定量的に緑地評価を行うとともに、総合的に高い評価を得た緑地を「重要な緑」とし、その中でも優先的に保全していく必要がある緑

地を「保全候補地」として明示しました。さらに、評価の単位とした“筆”ごとの評価結果を容易に閲覧できる、緑の保全候補地に関する台帳(GISデータ)を作成しました。また、“筆”は土地取引の基本単位であることから、緑地の保全要望などがあった際などに緑地の必要性をわかりやすく説明する資料が迅速に作成できるなど、緑地保全の好機を逃すことなく対応するためのツールとなることを期待しています。





ギャザリア ビオガーデン「フジクラ木場 千年の森」

株式会社グラック 八色宏昌・北川明介
株式会社富士植木 大恵朋彦・角幡大亮

□ 整備概要

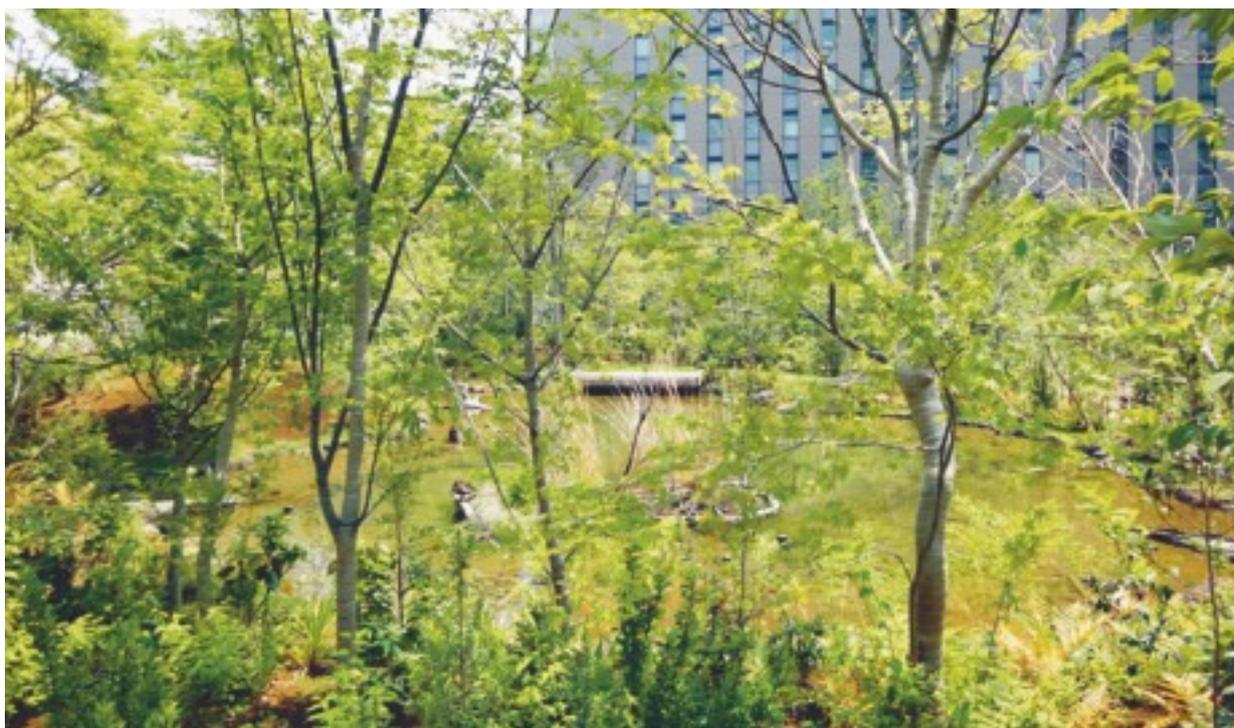
環境や生物多様性の時代といわれている今日、地域と密接な関わりをもつ企業には、企業活動を持続的に継続していくために、その土地や人々と共に環境に配慮した魅力ある地域づくりを行うことが求められている。一般に公開されている民間緑地であるギャザリア ビオガーデン「フジクラ木場 千年の森」の整備においても、ランドスケープを通じて、生物多様性がもたらす恵みを地域住民に提供し、豊かな地域環境の創造に寄与することが求められた。

敷地は、都市化が進行している荒川流域圏内の東京

都江東区木場の株式会社フジクラの旧深川工場跡地の再開発事業により整備された深川ギャザリア内に位置し、2010年3月に工場の建築物を解体した後、自然環境の創出のよりどころを求めることが困難な更地において整備を進め、2010年11月に竣工した。

□ 設計内容

設計では、生物多様性がもたらす恵みを地域住民に提供するために、地域の歴史をふまえ、地区の環境に適合する自然環境を創造し、自然の動的な生命力を感じることができるように考えた。自然環境を創出するにあたっては、地域の生態系と地歴の様相を紐解き、



保護区の池（2011年5月）

作品概要

作品名：ギャザリア ビオガーデン「フジクラ木場 千年の森」
 所在地：東京都江東区木場1-6-8ほか
 発注：フジクラ開発株式会社
 設計：株式会社グラック（担当：八色宏昌・北川明介）
 設計協力：株式会社PPM（プロジェクトマネジメント（担当：田邊雄策））、株式会社地域環境計画（魚類採取協力（担当：井上剛））、亀山章（東京農工大学名誉教授（助言））
 監理：株式会社グラック（担当：八色宏昌・北川明介）
 施工：株式会社富士植木（担当：大恵朋彦・西泉重宏・角幡大亮・斉藤学・松村一慶・前野悠樹・川崎年洋）
 設計期間：2009年4月～2009年10月
 施工期間：2010年4月～2010年10月
 規模：約2,200㎡
 主要施設：池、流れ、園路、デッキ、管理施設、浮島、カワセミ繁殖用土手等

作品評

この作品は、民有地の自然環境空間の重要性を認識し、事業主、設計者、施工者が三位一体となって成し遂げた先進的な秀作である。設計者の思いとこだわり、施工者の設計趣旨の咀嚼と技術提案、事業主の理解が相まって、素晴らしい作品が実現し優秀賞に選ばれた。

われわれが日々行う公共事業のほとんどの場合、設計と施工が分離されて発注される。このような仕組みでは設計意図の伝達において限界があり、いろいろな角度から議論検討がなされている昨今である。標準設計と会計数値根拠に呪縛された公共事業では到底望めないデザインエッセンスの伝達がなされ、民間事業ならではの長所を顕著に示したプロジェクトである。基本的にランドスケープの所作は公共財の取扱いであるものの、快適性、景観性、環境性が主に問われる。この点について本作品は示唆的な作品であり、今後の整備手法について教示するプロジェクトと言える。

その一方で、表現型において荒川中上流域の縮景に見えるが、箱庭的な印象が否めない。木場という下町の地場性、たとえば近接する清澄庭園の存在等、その辺のデザインテイストと関連性を持たせたならば、さらに高い評価を得たものと思われる。

自然のありように極力沿うように行った。荒川流域圏を生態系および物質循環の空間単位としてとらえ、水域の水草や魚類の生物は荒川流域圏内から調達した。また、石材や木材、土壌は、過去の木場における河川・海を通じた物流の歴史を踏まえて、石材は真鶴産、木材や土壌は関東または荒川流域圏内における調達を基本とした。これにより、土地の記憶の継承、調達先の農山村地域の一次産業などに寄与できると考えた。

竣工後の状況

竣工後は、コサギ、アオサギなどの中型鳥類の飛来・採餌やヒヨドリの水浴び、カルガモの抱卵、ナミアゲハやギンヤンマの産卵、モツゴなどの稚魚の遊泳が頻繁にみられ、日々変化していく動的な自然を地域住民、オフィスワーカーなどに楽しんでいただいている。



エントランス（2011年5月）



鳥類が飛来する流れ（2011年5月）



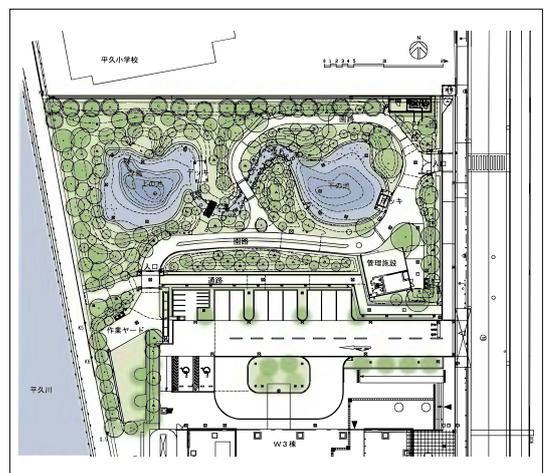
冬景色（2012年1月）



カルガモ（2011年5月）



コサギ（2011年10月, 11月）



平面図



麗澤大学 森の中の新校舎

株式会社景観設計・東京 都田 徹・渡辺 浩・武田史郎・福井裕人

□大学の理念「仁草木に及ぶ」：麗澤大学における森との共生

最近環境・自然ブームはもち論のこと都会の中での“自然と人間がサステイナブルな関係を結ぶ”ということが極上のランドスケープデザインであるといっても過言ではない時代になりました。

その意味において、この計画では既存の貴重な緑を、もう一度、あってあたりまえの緑にまで、質・量共に戻せないか、そして麗澤の学生が学園の緑をあってあたりまえの森と考えるようになり、それでもなお、その森を慈しんでくれる。そのように、本来の大学のモ

ットーの「仁草木に及ぶ」の捉え方に戻れる環境づくりを理念としました。

□キャンパス全体の緑の分析

—スケルトン+インフィルの緑の提案—

麗澤大学は創立75周年を迎え、生態的には75年経った森をもっています。このキャンパスを“さとやま”と見立て緑地ゾーニングを行いました。

また、これによって75年を経た「森を形成する濃い緑」と「キャンパスの骨格となる緑」を“キャンパスのスケルトンの緑”と定義し、一方、グラウンドやゴルフ場など、今後の開発計画の中で「変化してもよい



やすらぎの広場の“オーナメンタルグラスの庭”

作品概要

作品名：麗澤大学 森の中の新校舎
 所在地：千葉県柏市光ヶ丘2丁目
 発注：学校法人廣池学園
 設計：株式会社景観設計・東京
 設計協力：株式会社岡田新一建築事務所（柳瀬寛夫/多田邦浩）
 監理：株式会社景観設計・東京
 施工：清水建設株式会社（日下修）
 設計期間：2008年3月～2010年12月
 施工期間：2009年4月～2010年12月
 規模：約0.8 ha
 主要施設：「つどいの広場」（芝生広場）、「やすらぎの広場」（オーナメンタル中庭）、「くつろぎの広場」（芝生広場）、園路（レンガブロック舗装）、車まわし（レンガ小端）、駐車場、1Fピロティ（レンガブロック舗装）
 植栽（高木）：カキノキ、カツラ、ホオノキ、アカメガシワ、シダレウメ（移植）、ハクモクレン、アメリカザイフリボク、ハナミズキ、ヤマボウシ、シナノキ、サルスベリ、ハウチワカエデ、etc. (90%以上が株立ちの樹木)
 植栽（低木・地被）：オタフクナンテン、セイヨウシャクナゲ、アガパンサス、ヘメロカリス、オオバキボウシ、ツワブキ、シロタエギク、キンウラハグサ、パンパスグラス、etc.（オーナメンタルグラスの庭の方向づけ）

作品評

この作品は、大学キャンパス内全体のみどりを、スケルトン&インフィル手法をもって評価し、整備箇所のみどりについて詳細に確認して、建築計画を含め快適で美しいランドスケープを実現させた秀作である。また、全体的にクオリティの高いデザインが認められ優秀賞に選ばれた。

当大学キャンパス内の新校舎新築に当って、新校舎周辺の樹林環境と建築を調和させながら、学生等利用者が快適に利用できるアメニティを持ったランドスケープの設計を目的とした結果、みどりの空間と建築空間がみごとに調和し、優れたデザインディテールと相まって実に快適な修学環境を形成している。既存植生に対して詳細な調査と、根回しなどの周到な用意は当然評価に値する事項であるが、全般的にコンセプトとデザインを繋げる説明が欲しかった。みどりをスケルトン&インフィル手法にて捉えた着眼点は確かなセンスと思うが、これについての詳細な解説と表現が欲しかったところである。

緑」を「インフィルの緑」と定義しました。

□デザインコンセプト：キャンパスの中の学舎（まなびや）

(1) 緑の中に囲まれた、スケルトンの緑の中の新校舎とは「森と呼吸する学舎」です。

(2) たとえば、軽井沢の森の中で学んでいる学生たちというイメージで考えてください。

(3) 森と呼吸するとは、

I. 森をのこす

II. 森をつくる■▶そして「森とともに生きる」

III. 森をまもる

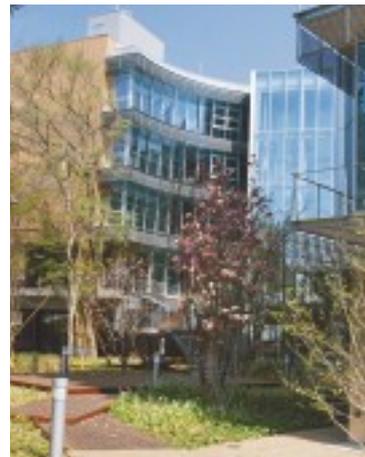
以上を私たちは大切にしてキャンパスの一角に「新しい森の中の新学舎」をデザインしました。



やすらぎの広場の夜景



車寄せ部の保存されたシダレウメ(移植樹)



外部ウッド階段とシモクレンの花（左側に保存されたムクノキ）



1階ロビーからの中庭（オーナメンタルグラスの庭）



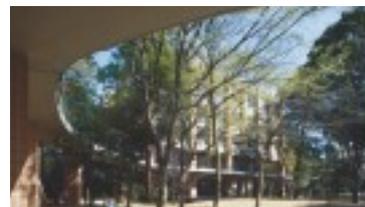
クローバーの葉をモチーフとしたウッド階段



外部の森との関係を大切にした2Fのロビー空間



本部棟（1号棟）と連絡ブリッジ—森の木々の間を渡る—



既存の樹木まわりを取り囲むホワイトペーパー（スイセン）



“あすなろ館”の中庭（オーナメンタルグラス）



既存の森とやすらぎの広場の連続感



2階テラスと既存の森（学生たちは森の中で呼吸します）



生物多様性保全型公園の管理運営計画立案と暫定運営

株式会社グラック 八色宏昌・西山秀俊・北川明介・並木 崇

□公園の概要と取組みの内容

対象地は、里山の自然環境が保全され、希少な動植物が生育・生息している近隣公園である。この公園はUR都市機構の黒川特定区画整理事業の中で整備され、2006年に川崎市に移管された。その後、2006年に川崎市は公園管理運営計画を立案するためのワークショップ（以下、WS）を開催した。

この取組みは、そのWSの企画・運営、公園開放の方法を含めた公園管理運営計画の作成と、その後2007年以降継続している暫定的な公園開放の一連のものである。

□WSによる公園管理運営計画の立案

計画立案においては、地域住民の意見を集約したうえで、川崎市の方針である公園利用と生物多様性保全の両立を図ることと、地域に根ざした公園管理を推進することが求められた。

計画は、管理方針や管理計画、公園開放の方法などから構成されており、分かりやすい表現やボランティア団体などが管理作業に参加しやすいように作業難易度や作業区分を明記している。計画立案は、公園利用と生物多様性保全の課題をWS参加者で共通認識化して進めた。



西側から見た公園中央部の湿地と背後の雑木林（2011年7月撮影）

作品概要

作品名：生物多様性保全型公園の管理運営計画立案と暫定運営
 所在地：神奈川県川崎市麻生区
 発注：川崎市麻生区役所道路公園センター
 計画立案・暫定運営：株式会社グラック
 事業目的：公園利用と生物多様性保全を両立する公園管理運営計画を立案する。また、その後の暫定運営を実施する。
 計画期間：計画策定2006年6月～2007年3月
 暫定運営：2007年4月～現在
 規模：約3.2ha

作品評

この作品は、川崎市に位置する黒川谷公園において、利用と保全の両立を目的とした管理計画について、特色ある提案を行ったものである。
 公園内には、雑木林や湿地など里山の自然が保全されていたこともあって、生物多様性の保全を課題とし、住民参加により検討したものであるが、単なる生物多様性の保全ということではなく、利用とのバランスをどのように両立させるかということに着目している。
 利用と保全の問題は空間的に分離することが一つの方法としてあるが、ここではそれも考慮しつつ、むしろ時間的な分離を行っているところが新しい試みとして評価された。すなわち開放日を限定し、その日は管理者をおいて利用を監視、コントロールするといった方法である。
 現状ではうまく進行しているようなので、この新しい試みの成り行きが注目される場所である。

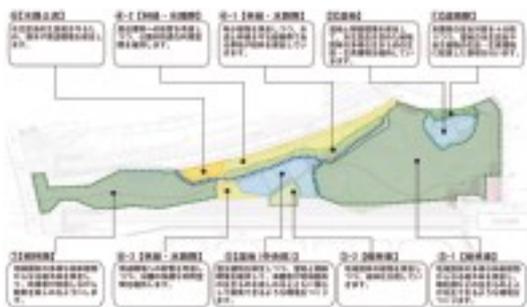
公園の開放方法については、公園利用と生物多様性保全の視点のほか、安全管理やコストの視点から開放の体制や頻度に関する議論を進めた。議論の結果、公園の開放日を限定することとした。頻度は、月に1回開放する暫定運営を行い、その結果から、頻度を順応的に設定できるようにした。

□ 開放日を限定した公園開放の暫定運営と効果

開放日を限定した公園開放は、計画立案に携ったコンサルタント（株式会社グラック）が中心となり2006年度から2011年度現在まで月に1回の頻度で実施して

いる。開放日には、安全管理や利用指導ができるように必ず管理者が駐在し、公園のガイドツアーを行い、公園の経緯や自然環境、公園管理運営計画の内容を現地で説明している。

2006年度から現在まで暫定運営を行った結果、管理者が駐在し、開放日を限定することで、自然環境への悪影響を抑えることや、生物多様性保全上、好ましくない利用があった場合に、利用規制を行うことが可能になったと考えられる。とくに希少種の盗掘・採集防止などの保全効果、侵略的外来種の持込抑制の効果が得られた。



各立地の管理方針



公園開放日のガイドツアーの様子

立地	作業内容	作業難易度	作業主体
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z

各立地の作業内容・作業難易度・作業主体



数カ月前までに開放日を公開する（公園ホームページ）



ボランティアによる侵略的外来種の調査

特別賞 賞 CLA 2011

第28回全国都市緑化かごしまフェア“花かごしま2011”

株式会社プレック研究所

石垣良弘・福岡 薫・棚瀬新一朗・木寺由香葉・石原聡子・井崎 誠・宮元亮祐

「第28回全国都市緑化かごしまフェア“花かごしま2011”」は、都市緑化の普及啓発と緑豊かな都市づくりを目的とした花と緑の祭典である。九州新幹線鹿児島ルート全線開業にあわせて平成23年3月18日から同年5月22日までの66日間にわたり開催された。

フェアの中心となるメイン会場，サブ会場には，目標を大きく上回る約96万人が来場し，大盛況のうちに幕を閉じた。

当社は，フェア全体計画から会場設計，設計監修に至る一連の業務を行い，立地を活かしたダイナミックな会場で鹿児島島の多彩な自然・文化の魅力を発信し，

身近に，楽しく緑にふれる機会を創出することで，多くの来場者を“花と緑による真心のこもったおもてなし”で出迎え，「南からの風にのせて！～よかまち，よか花，よか緑～」の開催テーマを実現した。

□メイン会場（吉野公園）

一鹿児島島の魅力を発信する会場づくり

メイン会場では，主催者による展示を中心に，自治体や企業・団体などによる庭園出展，都市緑化技術や環境技術などの出展を展開した。

桜島・錦江湾への眺望や雄大な芝生広場などの立地特性を最大限に活かした施設配置や会場修景で，来場



メイン会場「花市のまち」

桜島へのビスタを強調する沈床花壇。薩摩切子の紋様で鹿児島らしさを表現

作品概要

作品名：第28回全国都市緑化かごしまフェア「花かごしま2011」
 所在地：鹿児島県鹿児島市
 発注：第28回全国都市緑化かごしまフェア実行委員会
 設計：基本計画：株式会社ブレック研究所
 実施計画：ブレック研究所・グリーンダイナミクス・中村測量設計共同企業体
 設計監修：株式会社ブレック研究所
 監理：株式会社大翔（旧株式会社中村測量設計）
 設計期間：基本計画：平成20年9月～平成21年3月
 実施計画：平成21年7月～平成22年3月
 設計監修：平成22年5月～平成23年5月
 施工期間：平成22年11月～平成23年5月
 規模：メイン会場：30.9ha，サブ会場：50.7ha
 主要施設：屋外展示・出展，展示・出展パビリオン，修景花壇，飲食・物販施設

作品評

この作品は、平成23年3月18日から5月22日までの66日間にわたり鹿児島県で開催された、第28回全国都市緑化かごしまフェア「花かごしま2011」の基本計画・設計・設計監修を行ったものである。

会場はメイン会場、サブ会場、まちなか会場であるが、メインとサブ会場は既設の公園を活用したフェア会場である。メイン会場の吉野公園に計画された正面の桜島を背景とした花壇や、緩傾斜を利用した自治体や企業の出展による「花絵巻」は緑化フェアならではのダイナミックな花壇であり、周辺や既設の景観を活かした会場計画として高く評価できる。また、サブ会場の鹿児島ふれあいスポーツランドでは良く管理された芝生に花壇が映え、フェアのマスコットキャラクター「ぐりぶー」をテーマに展開したという会場構成は、県民により親しみやすく、花と緑を提供した会場計画としてまともなものである。

者に感動を与える会場づくりを行った。

また、鹿児島の風土を題材とした展示や修景などにより、来場者に鹿児島の多彩な自然・文化の魅力を伝えるとともに、交流の拠点づくりを行った。

□サブ会場（鹿児島ふれあいスポーツランド）

一県民がつくり、県民が楽しむ会場づくり

サブ会場は、県民出展作品を中心とした参加型の会場づくりを行った。かごしまフェアのマスコットキャラクター「ぐりぶー」をテーマにしたストーリー性のある会場構成で、ランドスケープと各出展作品とを一体的に見せつつ、出展作品や植物に「見て」、「触れて」、五感で楽しめる会場とした。



メイン会場「いこいの野」

自治体出展などの出展エリアは、緩やかな起伏との広がりのある芝生広場を活かし、花々が織り成す雄大な「花絵巻」として演出



メイン会場「暮らしの庭」

田の神さあや大根やぐら、アマン壺畑など、鹿児島の豊かな大地が育んだ農の風景を演出した庭園



メイン会場「島の華園(かえん)」

鹿児島県の28の有人離島を表現した美しい花壇群
 南国の島々を巡る旅をモチーフに、南北600kmにわたる鹿児島の多彩な自然・文化の魅力を表現



サブ会場「わんさか花市場」

会場のシンボルとなった巨大ぐりぶーのモザイカルチャー



修験道の靈山「求菩提山」 甦る修験の至宝 ～求菩提山史跡修復整備（福岡県豊前市）～

株式会社アーバンデザインコンサルタント 棚町修一・塚田和哉・上野一平

国史跡「求菩提山」には数多くの修験道の遺構が残されているが、集中豪雨や樹木の巨木化等により変形・崩落が散見されるようになった。史跡地での石垣、参道、樹木は、歴史的景観を構成する重要な要素となっているが、樹木の巨木化による史跡への悪影響も年々深刻さを増している。石垣と樹木との関係を検証すると、石垣の変形・崩落の要因となっている場合と根茎が石組みの結束をより強固にしている場合が見られ、景観の保全と史跡価値の保全とのバランスを考慮しながら設計・監理を行った。また、洗掘された参道については、土の素材感、耐久性、景観面を考慮し、土と硬化剤との配合を行い、歴史的景観との調和を図った。

作品概要

作品名：求菩提山史跡修復整備～甦る修験の至宝～
所在地：福岡県豊前市大字求菩提地内
発注：豊前市教育委員会，宗教法人国玉神社
設計：株式会社アーバンデザインコンサルタント
監理：株式会社アーバンデザインコンサルタント
設計期間：平成17年6月～平成18年3月
平成19年9月～平成20年3月
規模：2,000 m²
主要施設：石垣，参道

作品評

この作品は、風雨や樹木の影響で崩落した求菩提山の国指定史跡地内の遺構・遺物の修復のための設計と施工監理を行ったものである。

求菩提山中に広範に点在する坊跡、石垣、参道や修行に使われた行場の道など、数多くの遺構の分類とその実態を調査し、変形や崩落の様子と修復の課題を整理している。景観や利用に配慮しつつ史跡の保全を図るための課題である石垣に影響する既存樹木への対応や、参道の路面の工夫など、幾つかの工法を試験施工により検証を重ねながら最善策を選択し、従来の伝統技術に加え新技术を導入して成果をあげている。本作品により、史跡の全貌と修復のプロセスが記録に残され、また、保全と景観や安全性に配慮された石垣や参道が実現したことは意義深いことである。このように造園技術の探求のプロセスとその成果が評価された作品である。

その一方で、もっともPRすべき修復のプロセスについて、応募資料に記載された写真や図面に技術を具体的に説明する記述が乏しい点が惜まれる。



求菩提山



甦る参道



甦る石垣





人を元気にするパワーが宿る筑後国一の宮「高良山」 ～高良山保存整備活用計画（福岡県久留米市）～

株式会社アーバンデザインコンサルタント 棚町修一・塚田和哉

高良山 (312 m) は福岡県久留米市に位置し、古代より神の坐す山として信仰され、人々の心の拠り所となってきた。計画では「人を元気にするパワーが宿る高良山」を基本理念とし、歴史的資源の保存・整備・活用とあわせ、宗教法人高良大社の経済的基盤の強化を目指し、2タイププロジェクトを提案した。一つは文化財の保存・修復や来訪者の安全性確保など公共性の高いものに取り組む「行政との連携によるプロジェクト」、もう一つは高良大社が中心となって地域と協力して自主的に取り組む「民間との連携によるプロジェクト」で、それぞれ10のプロジェクトを選定した。

作品概要

作品名：高良山保存整備活用計画～人を元気にするパワーが宿る高良山～
 対象地：福岡県久留米市御井町 高良山
 発注：宗教法人高良大社
 事業目的：高良山の恵まれた自然環境、史跡環境および高良大社の宝物の調査、保存整備、活用を図り、地域活性化とともに高良大社の経営基盤強化の方策を立案するものである。
 事業体制：調査段階、計画段階の2段階で業務を進め、宗教法人高良大社の用地と久留米市の史跡指定地が混在しており、高良大社、福岡県、久留米市、株式会社アーバンデザインコンサルタントの4社協議を重ね、計画のとりまとめを行った。
 事業期間：平成18年6月～平成21年3月
 事業規模：高良山全域

作品評

この作品は、高良山の自然環境と史跡、高良大社の宝物等を調査し、その資源の保存活用の方策により、地域活性化と大社の経営への貢献を図ることを目指した計画である。
 “人を元気にする”、“地域の宝ものを大事に継承する”思想は多岐に亘るプロジェクトをジャンルごとに整理し体系化を図っている中にも明確に表現されており、地域の人々の心の拠り所となっている大社を中心とした計画の柱となっている。考え得る方策を、大社と行政との連携プロジェクト、大社と民間との連携プロジェクトに区分して立案しており、実現に向けて明確な方向性を示している。どのプロジェクトも高良山の資源を十分に活用し、魅力の掘り起こしのためのアイデアが豊富であること、プロジェクトごとにワンシートでまとめた構成は、イラストやスケッチを多用してていねいな説明がなされており、整備イメージや将来像が理解されやすいように工夫していることなどが高く評価された。
 その一方で、今後の展開が多いに期待されるのに対し、プロジェクトを実現に移していく手法についての説明不足の点が惜しまれる。





福岡市 緑のコーディネーター 公共空間を創造・保全する担い手育成の取組み

株式会社アーバンデザインコンサルタント

貞清 潔・大杉哲哉・十時 裕・塚田和哉・本村嘉邦・小峯 裕

この取組みは、福岡市の将来像である「自由かつ達人輝く自治都市・福岡をめざして」における市民公益活動の推進、すなわち「新しい公共」を創り育てるという視点から、福岡市における緑化推進の施策に、人材育成の体験型講座を組み入れたものです。

講座修了者は一定の条件を満たすことで福岡市長から認定書が渡され、市とのパートナーシップのもと、「緑のコーディネーター」として主体的・能動的に活動していきます。

このような緑化推進の活動をきっかけに、人と人をつなぐ社会関係づくりから地域コミュニティの再生が図られ、市全体の景観向上、公共空間の保全活動と担い手育成、安心・安全なまちづくりへつながります。

作品概要

作品名：福岡市 緑のコーディネーター
公共空間を創造・保全する担い手育成の取組み
発注機関：公益財団法人 福岡市緑のまちづくり協会
実施体制：①講座カリキュラムに沿って、会場設営、講座の手配、テキスト作成、教材準備、受講生への連絡・通知を行い、講座の運営を行う。
②養成講座修了者の中から、緑化活動に係わる社会参加意欲が旺盛な市民を福岡市長が「福岡市緑のコーディネーター」として認定し、社会参加への支援を行う。
③福岡市緑のコーディネーターの自発的な活動を支援するために、意見交換会を企画実施する。
目的：花や緑に関する知識や技術を持ち、緑化活動に関心の高い方を、市民緑化活動の指導者やアドバイザーとして活躍できる「福岡市緑のコーディネーター」として養成することを目的とする。
実施期間：平成18年12月～平成23年3月

作品評

この作品は、市民とパートナーシップを組むことにより生まれる「新しい公共」の領域や可能性を広げていくモデルとなる取組みであり、大きな意義を持った先進的な事例を複数年に亘って取りまとめたことが評価され奨励賞受賞となった。
また、講座の運営に当たって、実体験に基づく臨場感のある講座とすることや、受講者をお客様にせず、主体性を持ったボランティア市民として扱うための工夫を行った点も高く評価された。
しかしながら、緑のコーディネーター養成講座の講座内容の企画立案や実践的な運営方法に関する説明が十分に読み取ることができず、コンサルタントが主体的に携わった部分が応募資料から明確に読み取れなかったことが悔やまれた。委託者の提示した要望や条件に対してコンサルタントがどのように考え、どのようにして養成講座を企画・運営したかということが明確に説明されていれば、より高い評価が得られたとの声が多かっただけに非常に残念だ。今後に期待したい。

“緑のコーディネーター”とは、

花と緑に関する知識・技術を有し、市民（個人・団体・企業等）による緑化活動への指導・支援、意識啓発に仲間と一緒に取り組める人材である。

緑のコーディネーターの範囲

- ④活動をまとめる（リーダーとなっている）
地域やグループによる緑化活動を活性化（立ち上げる）
〔緑化活動によるまちづくりの気運が高まっているところやグループに、まちづくりのリーダーとして入り、みんなが自ら実現できるように指導する。〕
- ③場をつくる（講座を開いている）
生涯学習や学校教育の緑化啓発
〔市民の緑化意識を育成・充実していくために、様々なまちづくりや教育の現場を活用して、花と緑の魅力を伝え、ボランティア精神を育む。〕
- ②相対する（相談にのっている）
花と緑に関する質問や要望に応じて、人と活動の情報収集と充実
〔緑化に対する地域や市民の日頃感じている問題点や要望の相談窓口となり、やる気のある人々の情報収集とアドバイスをを行う。〕
- ①率先する（活動し汗を流す人）
ボランティアとしての積極的な参加
〔地域や団体等に緑のコーディネーターと自分を知ってもらい、活動の場を自ら発見する。〕

緑のコーディネーター



園芸講座の講師



園芸実践指導



苗作りの指導



里山保全活動



CLA 賞の趣旨と募集・選考のあらまし

CLA 賞選考委員長 島田 正文

CLA 賞は、会員の優れた作品や業務を顕彰し、協会内部だけでなく広く社会に紹介することを目的として設けられたもので、ランドスケープ分野のプロフェッショナルが、会員の行ったプロの仕事から自ら真摯に評価し、優秀なものを選定するというシステムに特徴があります。

本年も「設計」、「調査・計画」「マネジメント」の3つの部門に、15点の応募がありました。昨年と比較すると2点少なかったですが、ほぼ例年とおりの応募状況でした。この内、設計部門への応募作品では、リニューアルや修復、リメイクなどの既存のストックを活用した空間づくりのプロジェクトが目立ち、調査・計画部門、マネジメント部門においては、従来の公園空間を対象としたプロジェクトではなく、まちづくりから景観づくりまで非常に多岐に及ぶ空間を対象としたプロジェクトの応募が見られました。以上の2つの方向性は、昨今のランドスケープコンサルテーションの傾向を如実に現しているものと思われま

さて、CLA 賞は、その選考において応募された作品の応募資料によって評価する仕組みとなっています。原則的に現地確認は行わないため、応募資料のプレゼンテーションが選考にあたって非常に重要な要因となるわけです。

昨今、パソコンの普及によりプレゼンテーション能力は飛躍的に進歩したと思われま

本年の選考委員会においても、作品の内容充実とともに「応募者がその作品においてどのような役割を果たしたのか?」「どのような考えでその結論に至ったのか?」など、コンセプトやプロセスに関する事項がいていねいに表現されている作品は高い評価が得られています。

伝えるべき情報を取捨選択し、ストーリーを組み立て、効果的な表現を施してプレゼンテーションする能力は、周知の通りランドスケープコンサルタントにとって非常に重

要な能力であるはずで

また、自分が手がけたプロジェクトを振り返り、応募作品資料にまとめるという作業は、自己点検評価にもつながります。これはCPDの自己研鑽のひとつであり、技術者にとって極めて重要な意味を持っています。

□ 作品の応募と選考結果

CLA 賞が単なる顕彰制度にとどまらず、ランドスケープコンサルタントの技術力向上に繋がる仕組みとして、会員企業や技術者にその認識が今まで以上に高まることにより、その目的や意義が充分活かされるものと考えま

部 門	応募点数	最優秀賞	優秀賞	特別賞	奨励賞
設 計	8 点	該当なし	2 点	1 点	1 点
調査・計画	3 点	1 点	該当なし	該当なし	1 点
マネジメント	4 点	該当なし	1 点	該当なし	1 点
計	15点	1 点	3 点	1 点	3 点

□ 選考委員会

選考委員会はCLA 会員の技術者だけでなく、学識経験者にも参加いただき、客観的な視点も加味して選考に当たられるように人選を行いました。選考委員会の名簿は以下のとおりです。

- ・設計部門
- 委員長 島田正文 (理事/日本大学短期大学部生物資源学科)
- 副委員長 川尻幸由 (理事/㈱エイト日本技術開発)
- 委 員 石井ちはる (会員/㈱総合設計研究所)
- 〃 金子隆行 (技術委員/㈱ライフ計画事務所)
- 〃 福留正雄 (技術委員/㈱ヘッズ)
- 〃 藤巻司郎 (理事/藤造園建設㈱)
- 〃 丸山英幸 (会員/㈱愛植物設計事務所)

* 肩書きは選考委員会開催当時

2012年 CLA賞 受賞技術者プロフィール

栗原 崇 (くりはらたかし)

1995年3月東京農業大学農学部造園学科卒業。2006年(株)ブレック研究所入社。主に緑地計画や景観計画などに従事。技術士(総合技術管理部門:建設,建設部門:都市および地方計画,道路)。一級造園施工管理技士。趣味はまち歩き。



嶋原史也 (しぎはらふみや)

2005年3月慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。2005年(株)ブレック研究所入社。現在,都市・地域計画部主査。主にGIS分析やRS解析などに従事。趣味は演劇鑑賞。



鬼頭直美 (きとうなおみ)

2007年3月九州大学大学院芸術工学府修了。2009年(株)ブレック研究所入社。現在,都市・地域計画部研究員。主に緑地計画や生物多様性に関する計画などに従事。園芸にチャレンジし始めました。



八色宏昌 (やいろひろまさ)

福井県福井市出身。2002年東京農工大学大学院卒業。同年(株)グラク入社。大学では,景観生態学を専攻し,主に都市の生物多様性に関わるランドスケープの計画設計に携わる。RLA。技術士(建設・環境部門)。東北芸術工科大学非常勤講師。



西山秀俊 (にしやまひでとし)

1992年東京農業大学農学部造園学科卒業。(株)グラク取締役(ランドスケープマネジメント担当)。公園管理支援システム「Park Manager」の開発をはじめ,公園緑地のマネジメントプラン作成,マンション緑地の再生や管理計画作成等に関わる。



北川明介 (きたがわあさすけ)

1975年東京農業大学農学部造園学科卒業。(株)グラク代表取締役。市街地内の既存緑空間の活用や再生プロジェクトに多数携わっている。



並木 崇 (なみきたかし)

2005年武蔵工業大学環境情報学部卒業。同年(株)グラク入社。主に公園緑地の計画設計や維持管理計画の策定を担当。近年は,希少動植物の生育・生息する場所の緑地利用と保全に関する計画や森林の保全活用計画の立案に従事。



大恵朋彦 (おおえともひこ)

1960年東京生まれ。1983年東京農業大学造園学科卒業。同年4月(株)富士植木入社,工事部配属。2011年現企画開発第1部本部長に就任。工事部時代は主に多摩ニュータウンの公園工事に従事,現場代理人として「瓜生緑地」「一本杉公園」「豊ヶ岡北公園」「多摩中央公園(S62~H 2)3回の開園」を施工。



角幡大亮 (かくはただいすけ)

1971年東京生まれ。1994年東京農業大学造園学科卒業。同年4月(株)富士植木入社。入社以来,現場一筋で「尾張一宮(下り線)PA(旧道路公団)」「みちのく杜の湖畔公園(国土交通省)」などの公共工事を施工。最近では,マンション外構や「深川ギャザリア」などの民間造園工事も施工している。



都田 徹 (みやこだとおる)

大阪府立大学大学院緑地工学修士課程終了。鹿島建設(株)を経て,(株)景観設計・東京代表取締役。1997年より日本大学生物資源科学部講師,2002年ルイジアナ州立大学ランドスケープ学科客員教授。2002年度のASLA HONOR AWARD(ほたる見橋公園)を受賞。2007年ASLAフェロー受諾。その他,日本造園学会賞,北村賞,コンペ多数で受賞。趣味はお酒とテニス,スキー,登山。インターン生を引き受けます。



渡辺 浩 (わたなべひろし)

1962年大阪市生まれ。1985年大阪府立大学農学部農業工学科(緑地計画工学専攻)卒業。景観設計シンガポール事務所入社。1996年(株)景観設計・東京入社。現在同社常務取締役。技術士(建設部門),測量士,登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。日本造園学会, Singapore Institute of Landscape Architects (SILA)会員。剣道三段,趣味はテニス。



武田史郎 (たけだしろう)

1948年愛媛県生まれ。1970年大阪府立大学農学部農業工学科卒業。(株)伊藤造園設計事務所,(株)自由造園設計事務所,武田造園設計室を経て,現在,(株)景観設計・東京に勤務。測量士,一級土木施工管理技士,一級造園施工管理技士,二級建築士。趣味は木工,イラスト,軽音楽,伝統芸能(里神楽),オートキャンプ。主な設計物件:千鳥ヶ淵緑道,大田黒庭園,南レク都市公園近家地区,URゆりのき台(八千代市),美杉台(飯能市),きぬの里(水海道市)の公園・緑地・歩道の設計。



福井裕人 (ふくいひると)

1986年東京生まれ。2009年日本大学生物資源科学部卒業。都田徹の授業に感銘を受け,同年(株)景観設計・東京入社。その後施工部門にも興味を持ち2012年東光園緑化(株)入社。現在に至る。夢は設計,施工,管理ができるランドスケープアーキテクトになること! テニスの世界で有名になること!



石垣良弘 (いしがきよしひろ)

1988年武蔵工業大学工学部建築学科卒業。1989年(株)ブレック研究所入社。環境第設計部部長。ランドスケープの計画・設計,文化財の保存活用に係る計画などに従事。技術士(建設部門:都市および地方計画),登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。



福岡 薫 (ふくおかかおる)

1988年日本大学生産工学部建築工学科卒業。1992年(株)ブレック研究所入社。環境設計部所属。都市公園,動物園などに関わる建築,ランドスケープの計画・設計などに従事。一級建築士,一級造園施工管理技士,登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。



棚瀬新一郎 (たなせしんいちろう)

1984年東京デザイン学院造園デザイン科卒業。1985年(株)ブレック研究所入社。環境設計部所属。主にランドスケープの設計・監理に従事。RCCM(造園部門),一級土木施工管理技士,一級造園施工管理技士,登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。



木寺由香葉 (きでらゆかは)

1999年、九州芸術工科大学芸術工学部環境設計学科卒業。同年(株)ブレック研究所入社。九州事務所所属。造園計画・設計、文化財保存計画等に従事。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)、一級造園施工管理技士。



石原聡子 (いしはらさとこ)

2006年兵庫県立淡路景観園芸学校景観園芸専門課程卒業。同年(株)ブレック研究所入社。環境設計部所属。主にランドスケープの計画・設計に従事。



井崎 誠 (いざきまこと)

1999年長岡造形大学造形学部環境デザイン学科卒業。2009年(株)ブレック研究所入社。九州事務所所属。主にランドスケープの計画・設計に従事。



宮元亮祐 (みやもとりょうすけ)

1990年神奈川大学工学部卒業、1995年専門学校桑沢デザイン研究所卒業。同年(株)大石造園設計事務所入社。1997年(株)ブレック研究所入社。九州事務所長。事務所運営、ランドスケープの計画・設計に従事。技術士 (建設部門：都市および地方計画)、一級建築士。



棚町修一 (たなまちしゅういち)

1955年生まれ、九州芸術工科大学環境設計学科卒業。公園緑地計画・設計・監理、文化財関連の計画・設計に携わる。技術士 (建設部門：都市および地方計画、総合技術監理部門)、一級建築士。文化財の保存・活用計画を通じて、魅力あるまちづくりに取り組んでいる。



貞清潔 (さだきよきよし)

1985年九州芸術工科大学芸術工学部環境設計学科卒業。(株)アーバンデザインコンサルタンテック技術営業次長。都市や地域づくりにおける市民参加、協働のまちづくりの支援などに従事。RCCM(都市計画および地方計画)。



大杉哲哉 (おおすぎてつや)

1982年東京農業大学造園学科卒業後、(株)アーバンデザインコンサルタンテックに入社。公園計画・設計、まちなみ環境整備計画、道路修景計画、区画整理事業、ワークショップの企画・運営等の業に携わる。技術士 (建設部門)、RCCM (道路)、登録ランドスケープアーキテクト。



十時 裕 (とときひろし)

最近の協働、パートナーシップのまちづくりの必要性を受け、市民参加、参画の専門家として、ワークショップを武器に、その独特のキャラクターによって楽しく学びながらまちづくりに関わり、計画していく取組みを伝授、実施展開している。



本村嘉邦 (もとむらよしくに)

1998年福岡大学工学部土木工学科卒業。2011年(株)アーバンデザインコンサルタンテックに入社。公園緑地、駅前広場等の計画・設計業務に従事。



小峯 裕 (こみねゆたか)

福岡県生まれ。1997年山口大学工学部社会建設工学科卒業。(株)アーバンデザインコンサルタンテックに入社後、住民参加、協働のまちづくりの支援に携わる。住民の声やアイデアを多方面から収集する手法としてワークショップを活用し、当社の経験と実績を活かして、住民・行政職員と共に計画作りを進めている。



ランドスケープシンポジウムの開催など

北海道支部は、環境緑地研究所、サイプレス・ランドスケーププランニング、シビテック、ダイシン設計、高野ランドスケーププランニング、ドーコン、パシフィックコンサルタンツ北海道支社、北海道造園設計の8社の会員がおり、日本体育施設北海道支店と長谷川体育施設北海道支店の2社に賛助会員として参加していただいています。業務委員会と技術委員会で普段の活動を行っていますが、大きな活動は造園関連団体と共同で行っています。

□ 大通公園100周年記念シンポジウム2011

9月12日に、札幌市と北海道新聞社が中心となって設立した実行委員会の主催で開催しました。当支部も実行委員会に参加し、主催団体に名を連ねました。映画「探偵はBARにいる」の原作者である推理小説作家の東直己氏の特別講演と「大通、中島、円山～3つの公園の100年とこれから～」をテーマにしたパネルディスカッションが行われ、593名の市民が参加しました。

□ ランドスケープシンポジウム2011

—中島公園の資産と今後の活用について考える—

10月22日に、ランドスケープシンポジウム実行委員会の主催で開催しました。このシンポジウムは札幌都心の代表的な3公園を対象に毎年開催してきました。第1回は大通公園、第2回は円山公園、そして今回の中島公園が最終回となります。当支部は、第1回から実行委員会に参加しています。日本造園学会北海道支部副支部長の笠氏が「中島公園が有する歴史的・文化的資産」をテーマに講演し、中島公園で活動する市民団体の方を中心にパネルディスカッ

ションを行いました。また、笠氏の案内で「中島公園見どころ探訪ツアー」も行いました。

□ ガーデンアイランド北海道ミーティング in 旭川

1月28日に、NPO法人ガーデンアイランド北海道の主催で開催されました。当支部は共催の立場で参加しました。横浜国立大学名誉教授の岩切先生の講演「イギリスの庭—ヒントの宝庫」、市民活動団体代表の方々による「地域を変えるガーデニングの力～その始まりと広がり～」をテーマとしたパネルディスカッション、ガーデンアイランド北海道の活動報告が行われました。

「ガーデンアイランド北海道」は、北海道の自然、緑、花をテーマに、「美しい庭園の島・北海道」の実現を目指し、道民運動への発展を願って行っている活動です。2003年に開始し、「花と緑のネットワークづくり」などのさまざまな活動を行っています。当支部は年間を通して支援しています。

以上のほか、日本造園学会北海道支部、北海道緑化樹情報連絡会議（主催：地方独立行政法人北海道立総合研究機構）、北海道造園緑化関係団体連絡協議会（6団体）にも参加し、情報交換や相互研鑽に取り組んでいます。また、北海道内の造園人の最大の交流組織として、北海道造園懇話会があります。これは、所属する組織を問わず個人で参加する集まりで、現在の会員数は300名弱です。設立から51年目を迎えました。交流会や見学会を開催しており、当支部も事務局の一端を担っています。

平成23年度事業概要報告

□ 関東支部総会の開催

平成23年5月19日、本協会会議室において第27回関東支部総会が開催され、22年度の事業活動と収支決算の報告、23年度の事業計画案および収支予算案の説明があり、満場一致で承認されました。この事業計画に基づいて「業務、事業、広報」の三常設委員会を中心に積極的な支部活動を行いました。

しかしながら、支部の業務、事業、広報の各委員は、本部委員を兼任しており(支部事業員は本部技術委員と兼任)本部との連携は充実しましたが、その反面、各委員への負担が大きくなり、次年度以降の検討課題が残りました。

また、3月11日に発生した「東日本大震災」が及ぼした影響は甚大であり、CLA本部の「東日本大震災支援本部」と連携してさまざまな支援活動を展開しました。

関東支部では、ビジョンセミナーおよびみどりの手帖で「震災復興とランドスケープ」を特集して開催した他、支部自主研究活動として震災をも見据えた「都市公園再生プロジェクト」を2年計画で取組み始めたところです。

□ 業務委員会

業務委員会は、業務に係る各種情報の収集・発信とともに、対外的に当協会ならびに協会員をアピールすることを目的として活動しました。平成23年度は、本部業務委員会と連携して、下記に示す各種営業ツールの作成やとりまとめを行いました。

- 1) 超簡易型プロポーザルの実施要領(案)の作成
- 2) 会員情報の収集に係る考え方の検討
- 3) 「造園調査・計画・設計 標準業務・報酬積算ガイドラインの改訂」に係る説明会開催 平成23年6月30日
- 4) 東京都との意見交換会開催 平成24年2月13日

□ 事業委員会

事業委員会は、本部技術委員会の活動方針である「造園他業種との交流」、「設計施工の連携」を受け、下記の活動項目を実施しました。

- 1) 造園若手交流会の開催(広報委員会・一造会) 平成23年10月27日

2) ビジョンセミナーの開催

- 第7回セミナー「樹勢回復とマツ枯れ・ナラ枯れの虫害防除」 平成23年4月6日
 - 第8回セミナー「公園施設の維持管理～予防保全と事後保全～」 平成23年9月6日
 - 第9回セミナー「公園指定管理の実地見学会」 平成23年6月10日
 - 第10回セミナー「事業者・設計者・施工者が解説する現地見学会」 平成23年11月24日
 - 第11回セミナー「震災復興とランドスケープ」 平成24年2月20日
- 3) 造園他業種との意見交換会の企画
 - 4) 支部活性化方策の検討

□ 広報委員会

広報委員会は、支部活動を外部へPRし、会員・賛助会員に役立つ情報を収集、発信することを目的に、CLAと関わりのあるテーマ特集で支部広報誌「みどりの手帖」を3号発行し、自治体・関係団体・大学・支部会員等に配布しました。

また、幹事会・委員会報告、セミナー、造園若手交流会開催の活動を支援し、取材報告をHP、広報誌に掲載しました。

- 「みどりの手帖」Vol. 8 『地域との協働で取り組むランドスケープ』 平成23年10月発行
- 「みどりの手帖」Vol. 9 『子どもたちから学ぶランドスケープ』 平成23年12月発行
- 「みどりの手帖」Vol. 10 『震災復興とランドスケープ』 平成24年3月発行



第11回セミナー「震災復興とランドスケープ」開催

明日に向けた新たな事業展開を求めて —平成23年度事業計画の実施—

□ 通常支部総会の開催

平成23年4月27日、名古屋市中区のアイリス愛知において通常支部総会を開催しました。支部役員から平成22年度事業活動と収支決算の報告、平成23年度の事業計画案と収支予算案の提案、さらには役員の一部選出を満場一致で会員の承認を受けました。

併せて、功労者表彰の授与式も執り行い、中部支部の活動に長年にわたりご活躍され、ランドスケープ界の発展に寄与された「企業1社」と「個人1名」に表彰が贈られました。

また、通常支部総会終了後の意見交換会では、出席者から支部活動に対するご意見・ご助言を伺うことができました。



平成23年度通常支部総会



平成23年度功労者表彰

□ 平成23年度【なごや西の森づくり】

第11回植樹祭に参加

平成23年10月30日、名古屋市戸田川緑地中央地区において、名古屋市ならびに勲名古屋みどりの協会主催の「植樹祭」に参加しました。

行事内容は、苗木の植樹を始め、いきもの体験ゲームやクラフト教室、演劇、和太鼓演奏等、さまざまなイベント企画が催されました。

当協会支部においては、ブース内でのパネル展示やパンフレット配布によりCLA中部支部スタッフ総力で、ランドスケープのPR活動を積極的に行いました。

さらには、造園関係団体と協働で、育樹作業や子供向け



「植樹祭」CLA中部支部スタッフ



CLA中部支部テント内での「パネル展示」



戸田川緑地での苗木植樹

「いきもの体験ゲーム」のスタッフとして参加し、公園に集う人たちと交流することができました。

行事には、市民・行政・企業・協会団体関係者の方々が参加し、あいにくの空模様でしたが、約1,600名の方が来場し、多くの人で賑わいました。

□ 「花博記念公園鶴見緑地」現地調査の実施

平成23年11月10日、2020年愛知県で開催する構想が持たれている「花博」の実現に向けた調査・研究を進めるため、大阪市の花博記念公園鶴見緑地、および大阪城公園において「現地調査」を実施しました。

内容は、(財)国際花と緑の博覧会記念協会の三谷彰一事業課長による「花博開催の手続きとスケジュールについて」の勉強会と、引き続き、三谷課長による花博記念公園鶴見緑地での現地見学会を行いました。

勉強会および現地見学会では、花博記念公園鶴見緑地の歴史や花博開催の意義について、さらに当時の事業運営の秘話など、三谷課長の長年にわたる調査・研究成果に基づく含蓄のある内容を解りやすく説明していただき、大変、有意義な現地調査となりました。



(財)国際花と緑の博覧会記念協会
会議室で勉強会を実施



大阪城公園視察
CLA中部支部役員

□ 「公園マネジメント計画」策定の推進について

建設整備の時代から管理運営の時代に向けた時代の都市にとっての必須の課題として公園マネジメント計画実施の為の研究を発足させました。研究会は、今までに3回行い、制度としての展望の議論、先進事例の調査、およびその検討等を行いました。

大きな課題でもあり今後も継続し、本計画が制度として進展するように進めていきます。

平成23年度事業概要報告

□ ランドスケープ講演会の開催

6月7日に中瀬 勲氏(兵庫県立大学大学院教授)に「もったいない思想から公園を考える」と題して、講演をしていただきました。

□ みどりのまちづくり賞の開催

大阪府が推進する「みどりの大阪推進計画」の関連事業として、第1回目を大阪府との共催で行いました。10月16日に開催された第27回大阪府都市緑化フェアにて授賞式が行われ、そのあと審査員による講評会も開催し、パネル展示も行うなど多数の関係者の方々に参加いただきました。



□ グリーンサーカス2011

神戸総合運動公園にて開催される「グリーンフェスタこうべ2011」にあわせ、パネル展示、「箱庭風公園づくり体験」を出展しました。

□ 街角サロン

9月に小林竑一氏を講師に招き海外の整備事例やランドスケープの考え方などの勉強会や、10月に日本興業の工場やイサムノグチ美術館の見学会を行い、またメーリングリストでは登録されている方々に関西圏のランドスケープに関する催しの案内告知も行いました。



上記の活動のほか、関西で開催される講演会の情報などについて、年4回会員を始めとする関連団体約1,000箇所にむけて発行される広報誌「ランドスケープカンサイ」やホームページ(<http://www.cla-kansai.jp/>)等を通じて発信しております。

なお現在支部のホームページでは、昨年発生した東日本大震災に関連して、広報誌のバックナンバーから阪神淡路大震災発生当時に発行された記事を掲載しております。

九州ランドスケープセミナーの開催ほか

□ みどり・まち・夢を語る会の開催

九州支部では、通常支部総会の開催に合わせ、平成23年6月3日に「みどり・まち・夢を語る会」を開催しました。この会は、協会の会員だけではなく、行政やコンサルタント、公園建設業、植木業、施設業の皆さんの情報交換の場として、食事をしながら気軽に“みどり”や“まち”の夢を語る会です。

当日は、行政を含め40名ほどの参加があり、平成22年11月6日～平成23年4月25日まで開催された「台北国際花卉博覧会」の報告を聞いた後、食事をしながら楽しい時間を過ごしました。

□ 第28回全国都市緑化かごしまフェア 「花かごしま2011」への協賛

平成23年3月18日～5月22日の66日間、第28回全国都市緑化かごしまフェアが開催されました。九州支部では、協賛するとともに、フェア実行委員会の委員として支部長が参加しました。また、4月9日、10日に支部会員の参加による見学会を実施しました。



□ 第5回九州ランドスケープセミナーの開催

九州支部では、平成21年度からランドスケープに関係する業界や学生を対象に「九州ランドスケープセミナー」を開催しています。

今回は、『福岡市の重要な景観である屋台景観と、パブリック空間の楽しみと新たな創造』をテーマに、平成23年11月24日に開催しました。セミナーでは、海外や福岡市内のパブリック空間での屋台の事例を紹介した後、「屋台の個性ある景観の価値」について、福岡市総務企画局企画調整部企画課長 白井智彦様、(有)フクオカ・ナウ代表取締役 ニック・サース様および九州支部 堤八恵子支部長、中村久二代表幹事をパネラーにパネルディスカッションを行いました。会場からも、活発な意見が出され都市景観における屋台の関心の高さが感じられました。



一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会会員名簿

平成24年4月現在

◎：会長 ○：副会長 ◇：常任理事

正会員（五十音順）						
会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号	
(株)アーバンデザインコンサルタント	03-3353-1016	山口 隆 康	160-0022	新宿区新宿1-26-9 ビリーヴ新宿	03-3353-1018	
(株)アーバンデザインコンサルタント	092-482-8001	◇堤 八 恵子	812-0011	福岡市博多区駅前2-12-26 福岡 D ビル	092-482-8021	
(株)愛植物設計事務所	03-3291-3380	山本 紀 久	101-0064	千代田区猿楽町2-4-11 犬塚ビル	03-3291-3381	
(株)あい造園設計事務所	03-3325-6660	細谷 恒 夫	168-0063	杉並区和泉3-46-9 YS 第一ビル	03-3325-6262	
(株)荒木造園設計	0727-61-8874	荒木 美 眞	563-0024	池田市鉢塚2-10-11	0727-62-8234	
(株)荒谷建設コンサルタント	082-292-5481	矢野 順 也	730-0831	広島市中区江波西1-25-5	082-294-3575	
(株)エイト日本技術開発	03-5385-5111	◇川 尻 幸 由	164-8601	中野区本町5-33-11 中野清水ビル	03-5341-8520	
(株)エキープ・エスパス	03-5790-5101	峰岸 久 雄	151-0062	渋谷区富ヶ谷1-51-12 小塚ビル	03-5790-0381	
(株)エス・イー・エヌ環境計画室	06-6373-4117	津田 主 税	530-0014	大阪市北区鶴野町4-11-1106	06-6373-4617	
(株) LAU 公共施設研究所	03-3269-6711	山本 忠 順	162-0801	新宿区山吹町352-22 グローサユウ新宿	03-3269-6715	
(株)オオバ	03-3460-0127	萩野 一 彦	153-0042	目黒区青葉台4-4-12-101	03-3467-8160	
(株)環境・グリーンエンジニア	03-5209-3691	杉浦 力	101-0041	千代田区神田須田町2-6-5 OS'85ビル	03-5209-3696	
(株)環境事業計画研究所	075-431-0055	吉村 龍 二	602-8261	京都市上京区多門町440-6	075-431-0006	
環境設計(株)	06-6261-2144	井上 芳 治	541-0056	大阪市中央区久太郎町1-4-2	06-6261-2146	
(株)環境設計研究室	03-3584-1251	川瀬 篤 美	107-0052	港区赤坂2-17-22 赤坂ツインタワー本館11階	03-3584-1877	
(株)環境デザイン研究所	03-5575-7171	佐藤 文 昭	106-0032	港区六本木5-12-22 永坂ビル	03-5562-9928	
(株)環境緑地設計研究所	078-392-1701	松下 慶 浩	650-0024	神戸市中央区海岸通2-2-3 サンエービル	078-392-1576	
(株)環研究所	06-6306-2481	大石 博	532-0011	大阪市淀川区西中島6-8-20 花原第7ビル	06-6303-8614	
キタイ設計(株)	0748-46-4902	梶 雅 弘	521-1398	近江八幡市安土町上豊浦1030	0748-46-5620	
(株)空間創研	075-353-6337	◇吉田 昌 弘	600-8239	京都市下京区東堀川通下魚ノ棚下る鍛屋町23番地 シンエイ堀川ビル	075-353-6338	
(株)グラック	03-3249-3010	○枝 吉 茂 種	103-0004	中央区東日本橋3-6-17 山一織物ビル	03-5645-7685	
(株)KRC	026-285-7670	宮入賢一郎	381-2217	長野市稲里町中央3-33-23	026-254-7301	
(株)景観設計研究所	06-6535-0175	山田 直 樹	550-0012	大阪市西区立売堀1-2-14 本町産金ビル	06-6535-0176	
(株)景観設計・東京	03-5435-1170	都田 徹	141-0031	品川区西五反田3-8-3 町原ビル	03-5435-0909	
(株)景観プランニング	028-650-3030	石松 良 介	320-0036	宇都宮市小幡1-3-16	028-650-3034	
サンコーコンサルタント(株)	03-3683-7152	有賀 一 郎	136-8522	江東区亀戸1-8-9	03-3683-7116	
(株)新日本コンサルタント	076-436-2111	西田 宏	930-0142	富山市吉作910-1	076-436-2260	
(株)スペースビジョン研究所	06-6942-6569	宮前 保 子	540-0012	大阪市中央区谷町2-9-3 ガレリア大手前ビル	06-6942-6897	
(株)ZEN 環境設計	092-643-5500	中村 久 二	812-0053	福岡市東区箱崎1-32-40	092-643-5520	
(株)爽環境計画	03-3829-4691	木村 隆	130-0013	墨田区錦糸3-7-11 メゾン・ド・ファミリー	03-3829-4692	
(株)創建	052-682-3848	丸山 昇	456-0018	名古屋市熱田区新頭尾1-10-1	052-682-3015	
(株)総合計画機構	06-6942-1877	濱口 和 雄	540-0012	大阪市中央区谷町2-2-22 NS ビル	06-6942-2447	
(株)総合設計研究所	03-3263-5954	木村 弘	102-0072	千代田区飯田橋4-9-4 飯田橋ビル1号館	03-3263-7996	
創和エクステリヤ(株)	045-662-8028	風間 伸 造	231-0002	横浜市中区海岸通4-23 大宗マリンビル	045-662-8664	
第一復建(株)	095-557-1300	畠山 美 久	815-0031	福岡市南区清水4-2-8	092-557-2110	
大日本コンサルタント(株)	0489-88-8119	伝谷 恵 一	343-0851	越谷市七左町5-1	0489-88-3115	
高野ランドスケーププランニング(株)	0155-42-3181	金清典 広	080-0344	河東郡音更町字万年西1線37番地 旧チャンネル小学校	0155-42-3863	
玉野総合コンサルタント(株)	052-979-9111	◇吉田 勇 次	461-0005	名古屋市東区東桜2-17-14 新栄町ビル	052-979-9112	
(株)タム地域環境研究所	03-5348-5432	◇秋山 寛	164-0003	中野区東中野3-10-12 石川デンタルビル	03-5348-5431	
(株)地域計画建築研究所	06-6942-5732	畑中 直 樹	540-0001	大阪市中央区城見1-4-70 住友生命OBPプラザビル	06-6941-7478	
(株)地球号	06-6945-7566	中見 哲	540-0031	大阪市中央区北浜東6-6 アクアタワー	06-6945-7595	
中央コンサルタンツ(株)	052-551-2541	藤本 博 史	451-0042	名古屋市西区那古野2-11-23	052-551-2540	
(株)東京ランドスケープ研究所	03-5919-2288	佐々木 亨	160-0022	新宿区新宿2-6-4 KN 新宿ビル	03-5919-2290	
(株)ドーコン	011-801-1535	◇大塚 英 典	004-8585	札幌市厚別区厚別中央1条5-4-1	011-801-1536	
(株)都市環境ランドスケープ	06-6946-9588	波多野芳紀	540-0034	大阪市中央区島町2-4-9 島町第二野村ビル	06-6946-9747	
(株)都市計画研究所	03-3262-6341	佐藤 憲 璋	103-0014	中央区日本橋蛸殻町2-13-5 美濃友ビル	03-3669-8924	
(株)ナカタ空間企画	06-6930-4890	中田 政 廣	536-0015	大阪市城東区新喜多1-2-17-104	06-6930-4896	
中日本建設コンサルタント(株)	052-232-6032	中西 秀 伸	460-0003	名古屋市中区錦1-8-6	052-221-7827	
(株)中根庭園研究所	075-465-2373	中根 史 郎	616-8013	京都市右京区谷口唐田ノ内町1-6	075-465-2374	
(株)虹設計事務所	03-3419-7259	光益 尚 登	154-0023	世田谷区若林1-1-18	03-3419-7246	

会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号
(株)日本総合計画研究所	03-3254-9668	星野 嘉 郎	101-0047	千代田区内神田3-2-1 栄ビル	03-3254-6714
(株)ニュージェック	06-6374-4032	堀内 康 介	531-0074	大阪市北区本庄東2-3-20	06-6374-5147
パシフィックコンサルタンツ(株)	042-372-6530	西上 律 治	206-8550	多摩市関戸1-7-5	042-372-6349
(株)フジランドスケープ	03-5719-2919	新井 豊	141-0031	品川区西五反田3-8-17 宮野ビル302	03-6410-8135
(株)復建技術コンサルタント	022-262-1234	岩 渕 善 弘	980-0012	仙台市青葉区錦町1-7-25	022-265-9309
復建調査設計(株)	082-506-1853	来山 尚 義	732-0052	広島市東区光町2-10-11	082-506-1890
(株)ブレック研究所	03-5226-1101	◇前澤 洋 一	102-0083	千代田区麴町3-7-6 麴町 PREC ビル	03-5226-1112
(株)ヘッズ	06-6373-9369	◎大塚 守 康	530-0022	大阪市北区浪花町12-24 創建天六ビル	06-6373-9370
北海道造園設計(株)	011-758-2261	及川 涉	060-0807	札幌市北区北7条西2-6 山京ビル	011-709-5341
(株)ポリテック・エイディディ	03-3456-3010	徳丸 秀 夫	105-0014	港区芝1-5-12 TOP 浜松町ビル	03-3456-3015
(株)三菱地所設計	03-3287-5750	河合 康 之	100-0005	千代田区丸の内3-2-3 富士ビル	03-3287-3230
(株)緑設計	018-862-4263	板垣 清 美	010-0973	秋田市八橋本町4-10-26	018-862-4273
(株)緑の風景計画	03-3422-9511	板垣久美子	154-0012	世田谷区駒沢2-6-16	03-3422-9530
(株)森緑地設計事務所	03-3585-8361	藤内 誠 一	106-0044	港区東麻布1-4-3 木内第2ビル	03-3582-2758
(株)UR リンケージ	03-6214-5700	石田 晶	103-0027	中央区日本橋1-5-3 日本橋西川ビル	03-6214-5665
(株)ライフ計画事務所	03-5626-4741	村岡 政 子	136-0071	江東区亀戸6-58-12	03-5626-4740
(株)LAT 環境クリエイト	082-273-2605	青木 成 夫	733-0821	広島市西区庚午北2-1-4	082-271-2230
(株)ランズ計画研究所	045-322-0581	川島 保	220-0004	横浜市西区北幸2-10-27 東武立野ビル	045-322-0719
(株)リアライズ造園設計事務所	06-6941-1151	新井 英 光	540-0038	大阪市中央区内淡路町2-1-7	06-6941-1154
(株)緑景	06-6763-7167	瀬川 勝 之	542-0064	大阪市中央区上汐1-4-6 吉井ビル	06-6765-5599
準会員 (五十音順)					
(株)エコシビルデザイン	03-5362-3701	上村 央	160-0016	新宿区信濃町11-3 AK 信濃町ビル	03-5362-3702
(株)エコル	03-5791-2901	庄司 悦 雄	108-0074	港区高輪3-4-1 高輪偕成ビル	03-5791-2902
(株)環境緑地研究所	011-221-4101	小川 興 司	060-0004	札幌市中央区北4条西6-1-1 毎日札幌会館	011-221-4237
(株)現代ランドスケープ	06-6203-1270	西辻 俊 明	541-0047	大阪市中央区淡路町2-1-10 ユニ船場	06-6203-1271
(株)サイプレス・ランドスケーププランニング	011-211-6811	中村 圭 吾	060-0062	札幌市中央区南2条西10丁目2 山内ビル	011-211-6812
(株)シビテック	011-816-3001	川村 信 二	003-0002	札幌市白石区東札幌2条5-8-1	011-816-2561
(株)セット設計事務所	042-324-0724	池田与志雄	185-0012	国分寺市本町2-16-4	042-324-3468
グイシン設計(株)	011-222-2325	関 利 洋	060-0005	札幌市中央区北5条西6-1-23	011-222-9103
(株)塚原緑地研究所	043-279-8005	塚原 道 夫	261-0011	千葉県美浜区真砂3-3-7	043-279-8142
(株)辻本智子環境デザイン研究所	0799-72-0216	辻本 智 子	656-2401	淡路市岩屋3000-176	0799-72-0217
(株)都市ランドスケープ	03-5269-8982	内藤英四郎	162-0065	新宿区住吉町5-7 曙橋ハイム鍋倉	03-5269-8982
(株)都市・景観設計	06-6228-3388	奥村 信 一	541-0041	大阪市中央区北浜1-1-21 第2中井ビル	06-6228-3387
(株)パーク総合デザイン	075-343-4436	松原 法 昭	600-8357	京都市下京区猪熊通5条下る柿本町595-28	075-343-4870
(株)緑住環境計画	042-525-4560	松岡二三夫	190-0022	立川市錦町1-12-10 鈴木ビル	042-525-4561
賛助会員 (五十音順)					
アゴラ造園(株)	03-3997-2108	高橋正之輔	179-0075	練馬区高松6-2-18	03-3997-2252
荒木窯業(株)	0942-27-3231	福山 茂	830-0063	久留米市荒木町荒木823	0942-27-3234
石黒体育施設(株)	052-757-4030	石黒 和 重	464-0848	名古屋市千種区春岡2-27-18	052-763-8110
(株)ウォーターデザイン	03-3431-8070	松田 保 蔵	105-0004	港区新橋6-9-2 新橋第一ビル	03-3431-8116
内田工業(株)	052-352-1811	内田 裕 郎	454-0825	名古屋市中区好本町3-67	052-351-1326
H.O.C(株)	0956-48-8102	鑄流馬清規	858-0907	佐世保市棚方町221-2	0956-48-8111
(株)岡部	0764-41-4651	竹中 祐 利	930-0026	富山市八人町6-2	0764-31-6340
快工房(株)	03-3523-1056	時岡 邦 男	104-0032	中央区八丁堀1-12-4	03-3523-1058
小岩金網(株)	03-5828-8828	島倉 邦 彦	111-0035	台東区西浅草3-20-14 JNT ビル	03-5828-7693
(株)コトブキ タウンスケープ営業本部	03-5280-5400	上野山直樹	101-0062	千代田区神田駿河台1-2-1	03-5280-5768
(株)ザイエンス 営業本部	03-3284-0501	小山 幹 雄	101-0044	千代田区鍛冶町1-9-4 KYY ビル	03-3284-0504
(株)サカエ	0422-47-5981	栗田 嘉 嗣	181-0004	三鷹市新川4-7-19	0422-49-2122
(株)サトミ産業	0258-35-3005	佐藤 勉	940-0864	長岡市川崎5-495	0258-34-2513
(株)三英 景観事業部	04-7153-3141	尾山 弘 善	270-0133	流山市十太夫108-1	04-7153-3146
(株)三榮企業	042-386-8760	長嶋 孝 衛	184-0014	小金井市貫井南町4-11-36	042-386-8761

会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号
(株)サンエス	042-564-1021	横 倉 登	207-0022	東大和市桜が丘4-322	042-565-7239
西武造園(株)	03-6863-3732	高橋 尚史	171-0022	豊島区南池袋2-30-11 池袋第一生命ビル	03-6863-3733
太陽工業(株) 空間デザインカンパニー	03-3714-3461	坂手 素行	153-0043	目黒区東山3-16-19	03-3791-7731
タカオ(株)	0849-55-1275	高尾 典秀	720-0004	福山市御幸町中津原1787-1	0849-55-2481
(株)中京スポーツ施設	0561-53-1111	大内田 博	488-0022	尾張旭市狩宿新町2-27	0561-53-1000
テック大洋工業(株)	03-5703-1441	小 俣 智 裕	144-0052	大田区蒲田4-22-8	03-5703-1444
東亜道路工業(株)	03-3405-1813	田 中 秀 明	106-0032	港区六本木7-3-7	03-3405-4210
トースイ(株)	03-5276-1101	星野 弘 壽	102-0093	千代田区平河町1-7-7	03-5276-1117
東邦レオ(株)	06-6767-1110	木田 幸 男	540-0005	大阪市中央区上町1-1-28	06-6767-1263
トーヨーマテラン(株)	0568-88-7080	池 上 英 雄	480-0303	春日井市明知町1512	0568-88-3370
中村シラトリ(株)	0543-35-6271	石 田 勝 若	424-0911	静岡市清水区宮加三660番地	0543-35-6273
(株)中村製作所	047-330-1111	朝 倉 辰 夫	271-0093	松戸市小山510	047-330-1119
(株)ナベシマ	093-617-3039	鍋 島 雅 英	807-1262	北九州市八幡西区野面1101-1	093-617-3040
日都産業(株)	03-3333-0210	結 城 健 治	167-0053	杉並区西荻南1-1-9	03-3333-0631
日本体育施設(株)	03-5337-2616	奥 裕 之	164-0003	中野区東中野3-20-10 ケイエム中野ビル	03-5337-2610
長谷川体育施設(株)	03-3422-5331	竹 内 俊 裕	154-0004	世田谷区太子堂1-4-21	03-3412-8415
花豊造園(株)	075-341-2246	山 田 昌 次	600-8361	京都市下京区大宮通五条下る二丁目堀之上町518番地	075-361-0961
(株)日比谷アメニス	03-3453-2401	奥 本 寛	108-0073	港区三田4-7-27	03-3453-2426
(株)富士植木	03-3265-6731	成 家 岳	102-0074	千代田区九段南4-1-9	03-3265-3031
(株)丸山製作所	03-3637-4340	丸 山 智 正	136-0071	江東区亀戸7-5-1	03-3683-7553
(株)みぞい	022-255-9770	溝 井 敏 男	983-0821	仙台市宮城野区岩切字畑中5-9	022-255-5546
ミロモックル産業(株)	06-6390-0102	西 森 洋 史	532-0011	大阪市淀川区西中島5-1-8 日研ビル	06-6307-2133

当協会参与 山本紀久氏（株式会社愛植物設計事務所代表取締役会長）が、本年1月に『造園植栽術』を出版されました。

造園の現場にかかわってから、これまでの造園家としての48年間に及ぶ体験を通して得た、植栽を主軸とした造園についての考え方や具体的な技術の要点を、事例を交えわかりやすくまとめたものです。（「はじめに」より一部抜粋）

造園植栽術
山本紀久 著

朝日社刊
B5判 290頁 定価4,110円（税込）
2012年1月中旬発売予定

【主な目次】
第1章 背景と原則
山・麓・まちのみどりの緑が日本の風景・森がつくり出した国土を守る／野生動物の息づく風景を守る、ほか
第2章 植生と風景
植生の遷移が風景に反映する／植生が地域の気候を特徴づける／地形と植生の関係を読み取る、ほか
第3章 植栽計画
日本人の自然観と美意識／日本の造園の特色／植物季節の園と地を知る、ほか
第4章 植栽手法
自然地形と人工地形を使い分ける／植栽は自然にならう／地域固有の樹種で都市に森をつくる、ほか
第5章 植栽材料
生きている植栽材料の規格の見方／植物の種を正確に伝える名物とその扱い／造園植物として見た特徴と扱いの要点、ほか
第6章 監理と運営
生態系視の造園植栽に欠かせない監理体制／マスターランドスケープアーキテクトの必要性と役割／ワークショップで住民の意見を汲み取る、ほか
第7章 植物管理
生物多様性を意識した管理は簡易型管理が原則／対り出し植栽足し手法により植物景観を醸成する／置づくりに完成はない、ほか

この書は、
既往のものと
全く違う。

文章がいい。絵もいい。写真もいい。
何よりも著者の“植物”に対する知識、技術、
経験の豊かさと深さ、確かさ、そして
“人間と社会”や“庭から国土までの風景”への
広い愛情と思いが、最高にいい。（本文より）

進士 五十八
東京農工大学 名誉教授、
日本学術会議第20期、第21期委員

浦井 史郎（雅之）
造園家・東京都市大学 教授
国連生物多様性の10年国内委員会 委員長代理

22世紀に残したい
造園の書。 近藤 三雄
（本文より） 東京農工大学 教授

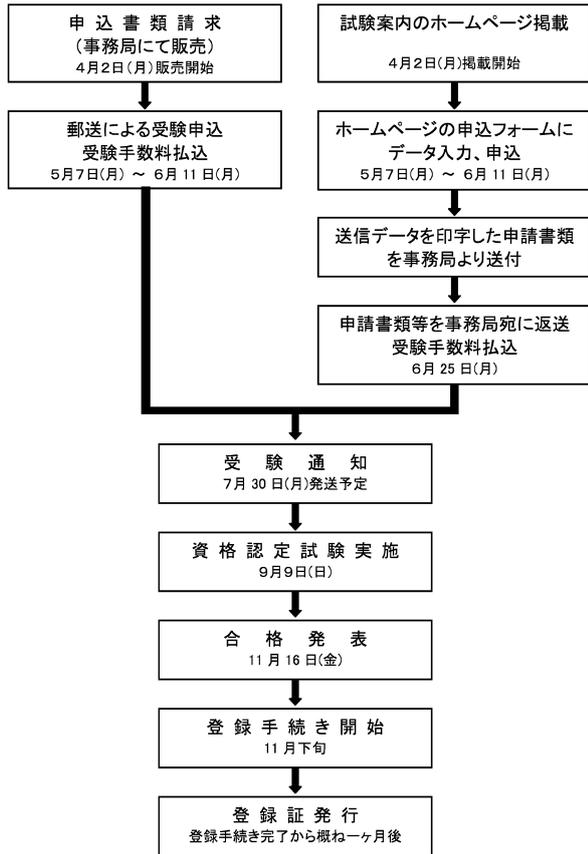
実学の書でありながら、植栽論の域を超え、
生態学的見地を踏まえ、良質な植栽が生み出
す地域と融合した風景論までをも読み解くこ
とができる。造園・ランドスケープの必読の
書である。（本文より）

2012年 登録ランドスケープアーキテクト(RLA)資格認定試験の実施について

登録ランドスケープアーキテクト(RLA)資格制度総合管理委員会
一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

登録ランドスケープアーキテクト(RLA)資格制度実施規程に基づく「登録ランドスケープアーキテクト(RLA)資格認定試験」(以下「RLA 資格認定試験」)を下記のとおり実施します。

1. RLA 資格取得までの流れ



※部分受験(再受験)の方については別途事務局より試験案内をさせていただきます

2. 試験実施日時

2012年9月9日(日) 9時00分～19時00分

3. 試験地

東京・大阪・福岡の3地区

※福岡会場は受験希望者数により設置されない場合がございます

4. 受験手数料

15,750円(税込み)

5. 申込受付期間

2012年5月7日(月)～6月11日(月)

6. 受験資格

学歴により、以下のいずれかに該当する者。

学 歴	ランドスケープアーキテクチャに関する 必要な業務経験年数	
	指定学科	指定学科以外
大 学 卒 業 者	卒業後3年以上の 実務経験を有する者	卒業後5年以上の 実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれていること
短 期 大 学 卒 業 者 高等専門学校(5年制)卒業	卒業後5年以上の 実務経験を有する者	卒業後7年以上の 実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれていること
高 校 卒 業 者	卒業後10年以上の 実務経験を有する者	卒業後12年以上の 実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれていること
上 記 以 外 の 者	卒業後15年以上の 実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれていること	

- (注)1 ランドスケープアーキテクチャに関する業務経験とは、ランドスケープアーキテクチャ事業の計画・調査・立案・助言及び設計・監理の業務に従事した業務経験をいいます。
2 ランドスケープ系大学院の課程を修了した場合は、正規課程の年数を業務経験年数として計上することを認めます。
3 指定学科とは、造園、緑地、農学、林学、環境、園芸、都市、地域、土木、建築系等のランドスケープアーキテクチャに関する学科をいいます(詳細は受験の手引をご参照ください)。

7. 試験の一部免除について

技術士を所有する方は、必要な書類を提出することにより、本資格認定試験の一部免除を受けることができます(詳細は受験の手引をご参照ください)。

8. 申込方法

申込方法は、左図のとおり①ホームページからの申込と②郵便による申込の2つの方法があります。

①はホームページ上に掲載される申込フォームに必要な事項を入力し申込んだ後、事務局より返送される申込用紙に署名、押印した書類を郵便にて提出する方法です。

②は事務局より申込用紙を購入し、必要事項を記入、署名、押印のうえ、郵便にて提出する方法です。

※インターネットが利用できる環境の方は①をお勧めいたします

9. 「申込用紙」の販売

1部600円で4月2日から下記事務局にて販売します。

申込用紙の郵送をご希望の場合は、事務局までお問合せください。

試験実施機関 103-0004 中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル8階 TEL 03-3662-8266

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会内

登録ランドスケープアーキテクト(RLA)資格制度総合管理委員会 事務局(土、日、祝祭日は休日です)

試験に関する詳細な情報は、ホームページ(<http://www.landscape-architect.org/>)でご覧になれます

ランドスケープアーキテクトとは何か。 登録ランドスケープアーキテクト(RLA)自らが、資格認定試験の解説 を通し、ランドスケープアーキテクトとは何かを浮き彫りにした一冊。

第1章 ランドスケープアーキテクトとは？

ランドスケープアーキテクトへの誘い
RLA制度創設の頃の思い
ランドスケープアーキテクトという職能
RLAの今後に向けて

[事例]

伝統と現代の交差—朱雀の庭
土地の記憶を生かす—きたまちしましま公園
ワークショップと風景づくり—多摩平の森
建築と緑の仕事—アクロス福岡
21世紀の庭園デザイン—京都迎賓館
自然環境の保全と再生—水元公園水産試験場跡地
まちの背景をつくる—鎌倉市・緑の基本計画
都市活動の演出—品川セントラルガーデン

[コラム ランドスケープアーキテクトへの期待]

風景デザイン (建築家 栗生明)
光の世界からRLAに期待すること (照明デザイナー 画出薫)
「ランドスケープ」とは何か、「アーキテクト」とは何か (土木デザイナー 内藤廣)

第2章 RLA資格制度、資格認定試験

資格制度の性格と位置づけ

試験問題の内容【択一問題編】

択一問題の構成と範囲
専門基礎、計画原論、自然的側面、
歴史・文化・社会的側面、植物・植栽、
ランドスケープ関連施設・材料、造成・排水

試験問題と解法【実技問題編】

実技問題の内容と視点
出題範囲と勉強の仕方
土地利用ダイアグラム、敷地計画、
造成・排水設計、植栽設計、詳細設計
土地利用ダイアグラム、敷地計画、
造成・排水設計、植栽設計、詳細設計



本書の最大の特徴であるCD-ROMは、本編を凌ぐボリュームで、個々の択一問題の具体的な解説や実技問題の解法や複数の解答例を掲載し、より深く試験問題を理解できるようになっています。ぜひ、ご購入いただきこのCD-ROMをご覧ください。

※CD-ROMは、Windows専用となっていますが、Mac等をご使用の方には、別途、収録データをお送りする準備を整えております

＜編集後記＞

昨年8月、「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」が成立した。これに伴って造園・環境関連分野においてもさまざまな義務付けや枠付けの見直し、権限移譲が本格化してきた。具体的には都市公園の設置基準や公園施設の設置基準を条例に盛り込むこと、緑地保全地域・特別緑地保全地区の区画決定が都道府県から市町村へ移譲されるなど、新たな対応を迫られる状況になっている。

一方、こうした動きに対して全国の市町村長がつくる「地方を守る会」は地域主権改革の立場から、たとえば国

土交通省地方整備局などの出先機関を廃止しようとする動きに対して、拙速に廃止論を出さないようにとの要望を出した。

立場によって意見は異なるものの、こうした改変期には国、都道府県、市町村の役割分担を整理・再考することが最優先課題であり、それを側面から支持・支援できる組織や職能集団の存在が重要である。いま、われわれにこそそうした職能を担う技術集団として新たなビジネスモデルを創造すること、そしてそれを土台にした幅広い社会貢献が求められているはずだと夢見てるのは、私だけだろうか。(○)

2012 No. 172

CLA journal

再生紙を使用しています。

発行日●2012年5月15日

発行人●大塚守康

編集●(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
広報委員会

発行所●(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7
近江会館ビル
TEL 03-3662-8266 FAX 03-3662-8268
http://www.cla.or.jp



ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.cla.or.jp>